

令和3年度 旧宇和島管内 生徒指導夏季研修会 実施報告書

今年度の生徒指導夏季研修会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。そこで、生徒指導夏季研修会に代わり、生徒指導の成功事例についての意見交換を行った。

生徒指導の成功事例集

1 生徒指導の事案対応成功事例

(1) 成功事例Ⅰ 宿題や提出物が出ない生徒への指導事例

ア 事案の概要

宿題を家庭で全くやってくるることができない。また、プリント類が保護者に届かず、提出物が期限を過ぎても提出できない生徒に対して、指導をしても変容が見られず、校内で検討を行った。

イ 具体的な対策や取組

- (ア) ケース会議を開き、関係諸機関（保健福祉課・社会福祉協議会）との連携を図り、本人だけでなく、家庭への支援に向けての体制づくりを行った。
- (イ) TODOリストを作成し、自分がやるべきことを視覚化させて取り組ませた。
- (ウ) 本人に優先順位を付けさせ、本人の希望に沿う形で課題に取り組ませた。その際に、マイルステップを意識し、本人が頑張ったところを認めていった。

ウ 指導後の変容

- (ア) 家庭の経済的な状況が安定することで、保護者から本人への声掛けや支援が増えた。
- (イ) 保護者と学校とが連携して、本人の成長を促すことができるようになってきた。

(2) 成功事例Ⅱ 自己中心的な発言による人間関係のトラブルの指導事例

ア 事案の概要

クラスの中に、自己中心的な発言を繰り返し、人間関係のトラブルを日々起こしている生徒が存在しており、その対応を検討した。

イ 具体的な対策や取組

- (ア) 活動中はなるべく教員が側にいるような体制をとった。
- (イ) トラブルが起きたときには、落ち着いて話ができる場所で話を聞き、どのような言動をとることが良かったかを本人と共に考えた。

ウ 指導後の変容

- (ア) 教員が側にいることにより、人間関係のトラブルは減少した。
- (イ) トラブルが起きる度に、本人と言動を考えていくことで、自己中心的な発言が減少していった。

(3) 成功事例Ⅲ 小規模校の人間関係のトラブルの指導事例

ア 事案の概要

小規模校で、入学前(保育所)から親も子も変わらない人間関係の中、幼さゆえの自分本位な言動から、低学年の友達間の関わりにおいて、トラブルが発生した。

イ 具体的な対策や取組

- (ア) 学級担任をはじめ、学級担任以外の職員やスクールソーシャルワーカーとの教育相談を実施した。
- (イ) 該当児童、その他の児童を含めた学級での十分な話合いの場を設けた。
- (ウ) 家庭訪問を行い、それぞれの保護者との話合いを行った。

ウ 指導後の変容

該当児童は同じ学年であり、今年度も同じ学級に在籍しているが、複式学級であるため、学級の構成児童は昨年度と変化している。一応の解決はしているが、教職員全員で十分に注意して見ている。今年度は特に問題は起こっていないが、時に相手の思いを考えない発言をすることがある。学級担任の細やかな声掛けにより、自分の言動を振り返る態度も見られるようになってきた。そのため、児童が少しずつ成長していることを感じている。

(4) 成功事例Ⅳ **小規模校の人間関係の固定化によるトラブルの指導事例**

ア 事案の概要

小規模校では、一人一人の児童のつながりも強いが、就学前からの人間関係がそのまま固定化してしまう傾向にある。その中で、トラブルが生じると関係修復が難しくなる。そうした人間関係のトラブルが起こるケースがあった。

イ 具体的な対策や取組

- (ア) 職員会議や校内研修会の時間に生徒指導会議を行った。児童の様子について全教職員で情報交換を行い、共通理解を深め、共通実践できる体制を整えた。
- (イ) 学校生活アンケート(月1回)を実施して、児童の実態把握に努め、全教職員で共有をした。
- (ウ) スクールソーシャルワーカーが来校し(月1・2回)、児童や教職員の教育相談を行った。

ウ 指導後の変容

- (ア) 学校生活アンケートでは、悩みだけでなく、友達の頑張っている姿も記述させることで、児童の頑張りを知ることができ、互いに認め合う温かい仲間づくりにつながった。
- (イ) 相談のある児童だけでなく、全児童を対象にして、いつでも何でも相談できる場を提供することで、いじめや不登校などの未然防止につながった。

(5) 成功事例Ⅴ **衝動的に行動する児童への指導事例**

ア 事案の概要

衝動が抑えきれず、自分の思い通りにならないと大声を出したり、発言したいときに発言をしたりと、やりたいことを抑えきれず行動してしまう児童がおり、今後どのように対応していくか、学校で検討した。

イ 具体的な対策や取組

- (ア) 見通しを持った生活を送るために、「いつ」「どこで」「何を」「何が必要か」などの一日の流れを表示した。
- (イ) 「全体で話を聞く場では勝手に発言しない。発言したいときは挙手をする。」などのルールを、機会を捉えて教え、できたときは褒めた。
- (ウ) 授業や行事の活動では、思い通りにならないこともあるということを、根気強く話していた。
- (エ) 怒ったり泣いたりしたときは、落ち着かせてからよく話を聞き、なぜそうなったのか、理由や状況を説明して、どうすればよかったか本人から言わせるようにした。周囲の児童にも、どうしてそうなったのかを話し、次はどんな対応をとればよいかを考えさせた。

ウ 指導後の変容

- (ア) 一日の流れがはっきり分かり、ゆとりを持って行動できるようになった。
- (イ) 周囲の児童も、どのように対応したらよいかを理解できるようになった。
- (ウ) ルールが少しずつ分かり、全体の場で勝手に発言することが減少した。

(6) 成功事例Ⅵ **不登校傾向の児童への指導事例**

ア 事案の概要

(ア) 6年生男子A児が、9月の修学旅行後、体調不良を理由に欠席が続き、不登校傾向が見られた。母親の車で登校するが、学校に着くと吐き気をもよおし、自分で車から降りることが難しい状況になった。

- (イ) 心療内科で適応障害の診断を受け、その後、欠席・遅刻・早退が増えていった。

イ 具体的な対策や取組

- (ア) 学級担任や養護教諭が家庭との連絡を密にして、情報交換をしたり、対応の仕方を話し合ったりした。また、本人とも約束事を決めながら対応していった。
- (イ) 登校についての約束事(何曜日は登校する等)、保健室で過ごすときの約束事、学習面での約束事を本人と話し合いながら本人に決めさせた。時間割に応じて、学級担任・養護教諭・専科教員の指導を受けながら、自分で学習を進めていった。

ウ 指導後の変容

- (ア) 学習面では、教科によって授業に参加したり、しななかったりということがあり、苦手な教科もあったが、理解しようと努力するようになった。

- (イ) 昼休みには、学級の「みんな遊び」などがあると、友達と一緒に楽しく遊ぶ姿が見られた。また、友達もよく遊びに誘ってくれるようになった。
- (ウ) その後、無事に小学校を卒業することができ、中学校に入学している。

(7) 成功事例Ⅶ **不登校傾向の生徒への指導事例**

ア 事案の概要

- (ア) 中学2年男子生徒。中学1年時の2学期途中から登校を渋るようになり、登校できなくなる。その後、2年進級後も登校できない状態であった。
- (イ) 登校できない原因は、家庭環境が大きいと考えられる。母子家庭であり、子どもの面倒を母親がなかなか見られず、生徒は昼夜が逆転していた。ゲームやスマホに夢中となり、学校への登校意欲は更に低下していた。

イ 具体的な対策や取組

- (ア) 不登校対応教員が、毎日家庭訪問を行い、登校を促した。
- (イ) 学担が休日の家庭訪問で母親や本人と話をし、連絡が途絶えないようにした。
- (ウ) 本人の考えをよく聞き、どういう状況なら登校できるかを確認した。
- (エ) 学年部で対応を検討し、家庭訪問の時間、相談室での対応、給食の対応、下校の対応などをルーティーン化して負担なく対応できるように工夫した。
- (オ) 週に3回の登校を目指すなど、目標を数値化して本人に示した。

ウ 指導後の変容

- (ア) 中学2年の1学期途中から、週2回の登校ができるようになった。10時半頃登校し、給食を食べて下校するようになった。教室には入れず、相談室で過ごし、勉強にも少しずつ取り組んだ。
- (イ) 2学期には、体育祭の練習を見学するようになり、一度教室に入って授業を受けることができた。体育祭当日も、救護テントで1日過ごし、生徒の活動を見ることができた。
- (ウ) 2学期に入ってから、登校は週3回を超えるようになり、心配していた食事の面も、給食を食べて栄養を取ることができるようになった。
- (エ) 母親が、こまめに学校に連絡をしてもらえるようになり、家庭でも登校をするよう本人に話をするようになった。学級PTAの委員長を務めるなど、学校の活動にも協力してもらえるようになった。

(8) 成功事例Ⅷ **遅刻が増えている児童への指導事例**

ア 事案の概要

登校班日誌に、遅刻が続いている児童についての内容が書かれていた。該当児童は、授業中眠そうにしていることを学級担任も把握しており、今後の対応を検討した。

イ 具体的な対策や取組

全教職員が連携して、児童への聴き取り、保護者への連絡、助言を行った。

ウ 指導後の変容

保護者の登校に関する意識が高まり、そのことで、該当児童の遅刻は減少した。

(9) 成功事例Ⅸ **感染症対策が原因でストレスを抱える児童の指導事例**

ア 事案の概要

コロナ禍において、様々な制限があり、ストレスを感じている児童への対応

イ 具体的な対策や取組

感染症対策を意識した上で、「校長先生と遊ぼう」「七夕かざり」「全校遊び」「誕生集会」など、児童にとって楽しい活動を企画した。

ウ 指導後の変容

- (ア) 児童同士の信頼関係が深まるとともに、学級への愛着心や仲間を思いやる気持ちが芽生えてきた。
- (イ) 児童に仲間や学級を大切に思う気持ちが育つことで、自分勝手な行動をすることも少なくなった。

(10) 成功事例Ⅹ **インターネットやゲームの利用の仕方に関する指導事例**

ア 事案の概要

家庭でインターネットやゲームをやり続ける児童が増え、そのことにより基本的な生活習慣の乱れや授業の集中力の低下などの課題が見えてきた。

イ 具体的な対策や取組

(ア) 毎月、チャレンジ週間を設定し、家庭学習の振り返りをさせた。その中で、ゲーム・スマホなどの時間をチェックする項目を設けて、実態を把握した。

(イ) 地区別懇談会で、SNSの使い方についての動画の視聴を行い、保護者へも家庭での情報モラルや利用時間等のルールづくりをお願いするなどの啓発を行った。

ウ 指導後の変容

ゲーム時間等を記入することで、児童・保護者にとっては生活の振り返りにつながり、教師にとっては実態把握を通して、指導に役立てることができた。

(11) 成功事例Ⅺ **話を聞く態度の改善に関する指導事例**

ア 事案の概要

話を集中して聞くことができず、同じ指導を繰り返す必要がある児童が増えてきているため、学校全体としてどう対応していくかを検討中であった。

イ 具体的な対策や取組

(ア) 集団下校前の整列時に、全教職員で共通の認識の下、聞く態度について指導を行った。

(イ) 生徒指導主事が、最近起こった生徒指導に関するトラブルについての伝達と啓発を行ったり、良い行いをした児童を紹介したりして、児童に関係する生活の諸問題の情報を共有する場を設けた。

ウ 指導後の変容

(ア) 児童が話す人の方を向いて、話を聞こうとする態度が育った。落ち着いた態度で生徒指導主事の話聞くことで、情報が行き渡るようになった。

(イ) 認め合ったり、自分の行動を振り返ったりする児童が増えてきた。

(12) 成功事例Ⅻ **年度当初における全教職員の児童理解に関する指導事例**

ア 事案の概要

4月初めごろ、新しく着任した先生が多く、生徒指導に関する共通理解をするのに、児童の名前や顔が一致しない状況であった。

イ 具体的な対策や取組

学年ごとに集合写真を撮り、写真と名前が一致する名簿を作成した。生徒指導に関する共通理解の場面では、それを見ながら話し合うようにした。

ウ 指導後の変容

児童の名前と顔を確認しながら、より確実な共通理解を図ることができた。

(13) 成功事例ⅩⅢ **初任者教員の学級経営に関する指導事例**

ア 事案の概要

初任者教員が受け持つ学級で、トラブルが続き、学級が落ち着かない状態だった。

イ 具体的な対策や取組

初任者教員への生徒指導に関する研修をするとともに、学級ルールを作成し、教室に掲示することを提案した。

ウ 指導後の変容

担任の指導が行き渡るようになり、学級全体が落ち着いてきた。

2 生徒指導に関わる学校全体の取組事例

(1) 学校全体の生徒指導取組事例Ⅰ

ア 具体的な対策や取組

(ア) 縦割り班を軸とした、全校集会や全校遊びを通して、仲間意識を育てる。

(イ) 少人数の枠にとどまるのではなく、いろいろな場面で臨機応変に対応し、自分の思いを相手にしっかり伝えようとする力を養い、互いの良さを認め合う活動を重視する。

- (ウ) 児童とのコミュニケーションの強化を図り、問題の早期発見・早期対応に努める。
- (エ) 教職員、保護者、関係機関との連携を密にし、情報を共有して、共通理解の上で生活習慣や人間関係構築の向上を図る。

イ 指導後の変容

- (ア) 教職員の年齢構成が高いが、若い教員を中心に児童が日々の出来事や悩みを相談しやすい場や雰囲気を作ることで、児童理解をより深めることができた。
- (イ) 自分で考え、自分で切り開いていこうとする力はまだまだ弱いですが、いろいろな場面でヒントを与えながら投げ掛けていくことで、考える力が身に付いてきた。
- (ウ) 感染症対策を講じながら工夫した異学年交流、学校間交流を進めていくことで、人間関係構築力の向上を図ることができた。

(2) 学校全体の生徒指導取組事例Ⅱ

ア 具体的な対策や取組

- (ア) いじめや不登校のない魅力ある学校づくりのために、全教職員が児童一人一人と教育相談をして、学級担任との情報共有や継続した指導を行っている。
- (イ) 昼休みを使い、今頑張っていること、興味を持っていること、勉強や友達の話など、多様な話を聞くようにし、児童の様々な面を把握する。相談結果は記録簿に蓄積し、学級担任との情報共有や継続した指導に活用できるよう努めた。

イ 指導後の変容

児童は、話をゆっくり聞いてもらえることで、安心して学校生活を送っている。児童が安心して過ごすことのできる雰囲気が、生徒指導諸問題の未然防止につながっていると考えられる。